

2020 年度 技術職員研修（第3 専門技術群：物質・材料系）報告書

人間・環境学研究科 下野 智史
 工学研究科 宮嶋 直樹
 工学研究科 大岡 忠紀
 理学研究科 三島 壮智

1. 研修の目的

本研修は、自身に求められている役割を十分に理解した上で、業務上有益となる e-ラーニング講座を選択して受講することにより、より専門的な知識及び技術を習得するとともに、技術職員としての資質の向上と応用力の開発を図ることを目的とした。

2. 受講期間

2021 年 2 月 15 日から 3 月 12 日まで

3. 受講者と受講講座

受講者数：23 名

受講者氏名と受講講座名は表 1 を参照

表 1. 受講者名簿

	所属	氏名	所属専門技術群	※	講座名
1	複合原子力科学研究所 技術室	中森 輝	第 5 専門技術群	I	よくわかる設備技術（設備保全編）
2	人間・環境学研究科	酒井 尚子	第 3 専門技術群	I	よくわかる化学物質管理（法律編）
3	人間・環境学研究科	下野 智史	第 3 専門技術群	II	リチウムイオン・ニッケル系電池とは何か？
4	人間・環境学研究科	吉田 あゆみ	第 3 専門技術群	II	電気部品と電気回路
5	理学研究科	田尾 彩乃	第 1 専門技術群	II	加工
6	理学研究科	道下 人支	第 1 専門技術群	II	設計・製図
7	理学研究科	廣瀬 昌憲	第 2 専門技術群	II	機械工学基礎（4 力）
8	理学研究科 附属地球熱学研究施設	三島 壮智	第 3 専門技術群	I	技術者の倫理
9	農学研究科	埜 圭介	第 3 専門技術群	I	化学分析の基礎知識
10	農学研究科	吉岡 哲平	第 3 専門技術群	I	よくわかる化学物質管理（法律編）
11	化学研究所	藤橋 明子	第 3 専門技術群	I	化学分析の基礎知識
12	防災研究所技術室	波岸 彩子	第 2 専門技術群	II	モータと電力
13	防災研究所技術室	宮町 凜太郎	第 2 専門技術群	II	プログラミング

14	防災研究所技術室	川崎 慎吾	第2 専門技術群	II	電気回路基礎
15	工学研究科	宇野 優衣	第3 専門技術群	I	化学分析の基礎知識
16	工学研究科	佐々木 宣治	第3 専門技術群	II	電気部品と電気回路
17	工学研究科	中池 由美	第3 専門技術群	II	リトライ数学II
18	工学研究科	植田 義人	第3 専門技術群	I	技術者が知っておくべき特許の基本①[出願・中間処理編]
19	工学研究科附属 桂インテックセンター	西崎 修司	第1 専門技術群	I	よくわかる工場の環境対策
20	工学研究科附属 環境安全衛生センター	大岡 忠紀	第3 専門技術群	II	電気測定
21	工学研究科附属 環境安全衛生センター	日名田 良一	第3 専門技術群	I	化学分析の基礎知識
22	工学研究科附属 環境安全衛生センター	宮嶋 直樹	第3 専門技術群	II	太陽電池とは何か?
23	環境安全保健機構	津田 裕美	第3 専門技術群	II	電子回路基礎

※ I : アイアール技術者教育研究所

II : 株式会社コガク

4. 研修の概要

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、e-ラーニングを使用する研修とした。(I)アイアール技術者教育研究所(日本アイアール株式会社)と(II)株式会社コガクが提供するe-ラーニング講座のうち、第3専門技術群の研修として相応しい内容の講座に限って受講できるものとした。受講申し込みにあたって、複数講座の申し込みも可としたが、申し込み者数が多く、受講者全員が第1希望の講座のみ受講することとなった。両社の講座への受講(者)数と受講申込数を表2に示す。

表2. 受講数・受講申込数一覧

	e-ラーニング提供会社名	受講数	申込数
I	アイアール技術者教育研究所	10	21
II	株式会社コガク	13	38

受講者全員が報告書を提出して研修を修了した。受講者により講座が異なること及び講座

の著作権が両社に帰属することから、研修内容の詳細に関する報告は記載しない。

5. 考察

初めて個別にe-ラーニングを受講する形式での研修を実施した。受講者からは、「有意義であった」「今回学習した内容を基礎として自己研鑽を継続したい」など好意的な感想が多く寄せられた。一方で、「参考にらなかった」「説明毎の違いが理解し辛く、残念であった」などの声もあり、受講した講座によって意見が大きく分かれた。(II)の講座の受講者から否定的な感想が多かったが、これは、連続した内容の講座が多く、一方しか受講できなかったために物足りないと感じた受講者が多かったのではないと思われる。実際、受講者の感想には続編の講座も受講したいとの意見があった。(I)の講座受講者の感想は総じて好意的だった。(I)の講座は短めで、一つで完結しているものが多く、ある程度の達成感を得た受講者が多かったと思われる。こちらも、他の講座も受講したいとの意見が寄せられた。

このように、受講者からは続編や他の講座も受講したいと e-ラーニング形式の研修継続を求める意見が上がった。受講希望者には申込時に第3 希望まで受講したい講座を選んでもらったが、結果として、受講者全員が第1 希望の講座しか受講できなかったことが一因であると考えられる。

受講者決定にあたり、今回は『浅く広く』受講者を採用したが、第3 専門技術群所属の人を優先する、あるいは部局の提示した優先順位に基づいて決定するという考え方もできた。e-ラーニング形式での研修に一定の需要があることが分かったので、同様の研修を企画する場合は『受講できる講座を一つとして、第3 専門技術群所属の人を優先する』という方法で解決できると思われる。受講者の決定方法が今後解決すべき課題となった。

6. 総括

新型コロナウイルス感染症拡大の影響により対面での活動が制限された状況下、手探りで企画、実施した e-ラーニング形式の研修だったが、受講者からは概ね好評で有意義な研修となった。e-ラーニング形式の研修では参加者同士の意見交換ができず、技術職員間の交流を図ることもできないという欠点があったが、時間の融通が利き、業務の都合に合わせて受講することができる、それぞれの専門性に応じた講座を受講できるという大きな利点もあった。今回の研修により、e-ラーニング形式でも技術職員としての資質の向上と応用力の開発を図るとする研修目的の達成は可能であることが分かった。研修内容の選択肢を増やすことができたという点においても、有意義な研修であったと言える。